

びわこ学院大学短期大学部 令和四年度 学校推薦型選抜（公募推薦）「小論文問題」

次の文章を読み、あなたの考えたことを六〇〇字程度で述べなさい。

元メジャーリーガーのイチロー選手が、インタビュで「目標は低く持ったほうがいい」といっていました。イチロー選手のような傑出したプレイヤーともなれば、当然、志は高いはずですが、抱く目標もきつと高いだろうと思われるかもしれません。

なぜ目標は高く持つより、低く持ったほうがいいのか？

イチロー選手に限らず、トッププレイヤーになるような人は皆、高すぎない目標をコツコツと達成して、トップの位置までのぼりつめるからだと思います。

自分の力がよくわかっていない人ほど、現実的な目標が描けず、身の丈に合わない高い目標を持つ傾向があります。

たとえば、高校球児にいきなりイチロー選手のようなバッティングをしなさいと指導しても、そんなことはできません。仮にイチロー選手のような高度なバッティングを目指して練習に励めば、何段階ものステップを飛ばすことになり、その練習はおそらく地に足がつかないものになってしまうでしょう。

目標を低めに設定したほうがいいのは、努力を要するものすべてに使えることです。

英語を習いたての人が、ネイティブスピーカーのような流暢な英語をたった半年で話せるようになりたいという目標を立てるとしたら――。目標設定が間違っていれば、現実的な努力の方法がつかめず、当然ながら挫折するでしょう。

たとえば初級者の実力なのに、高いレベルの英語力を身につけたいからといって、NHKラジオ講座などの上級者向けのテキストやCDを使って勉強をする人がいます。でも土台がしっかりしていないのに、難しい言い回しの英文を覚えても、まったく身につけません。

英語の勉強を始めるなら、まずはこれくらいはできるだろうという小さな目標を立てる。家を建てていくように、土台から一つひとつの材料を組み立てるがごとく、英語を覚えていく。

たとえば使っているテキストの英文を最初から10頁まで暗記する。それができたら次に、また10頁分覚える。そうやって一冊分覚えていくわけです。いきなり、ペラペラになるという目標を立てても、いつまでたっても上達が感じられず、早晚投げ出ししてしまうのは目に見えています。

あくまで力がつくための方法を考え、目標を小さく区切ってコツコツやっていく。低い目標がクリアできれば、次の目標をまた低めに設定する。語学の習得には、この繰り返ししかありません。

目標を立てるにあたって最初にすべきことは、自分のレベルがどのあたりなのかを正しく把握することです。実力以上に高く見積もっても仕方ありません。

自分がどの辺にいるかをつかんだら、それに応じた高すぎない目標を立てる。それが確実に上達するための第一歩になります。私の知り合いの女性でかなり英語のできる人がいます。彼女は高校時代、英語の試験の点数はよくなかったものの、英語の発音だけはすごくよかったです。好きな洋楽の歌詞をたくさん覚えて、よく歌っていたので発音がうまくなったのですが、それをあるときネイティブの外国人から褒められた。褒められると嬉しいですから、そんなところから英語が好きになり、どんどん上達していったそうです。

このように努力の成果を褒める人が周りにいると、モチベーションはぐんと上がります。低い目標でも、それをきちんと評価してくれる上司や指導者がいると、確実に上達は速くなる。

上達するには、効率的な方法が必ずあります。何か大きな目標を掲げて前へ進もうとするときは、まずその目標を小さく分け、一つひとつを着実に達成していくことです。

（丹羽宇一郎『人間の器』幻冬舎新書）